コード No. 11106

Anti-Human
YB-1 (21A3) Mouse IgG MoAb

容量 ： 100 µg

はじめに ： YB-1 (Y-box binding protein-1)は高度に保存された cold shock domain を有し、CCAAT box に結合する転写因子です。この配列は薬剤耐性遺伝子 MDR1 のプロモーター領域に存在し、YB-1 が MDR1 遺伝子産物である P-Glycoprotein の転写に関与していることから、シスプラチン耐性のがん細胞株で P-Glycoprotein が高発現すると報告されています。YB-1 は通常細胞質に存在しますが UV 照射や抗がん剤処理を受けたがん細胞では核へ移行します。また、PCNA や p53 と関連して DNA 損傷、修復に関与するとも考えられています。非小細胞肺がんの約半数で核に高発現しており、特に扁平上皮がんにおいて核に発現している症例では予後が不良であったことが報告されています(文献 1)。また、乳がんにおける術後化学療法施行例において、YB-1 陽性例では 5 年再発率が 66％ (YB-1 陰性例では 0%)と、予後が悪く、HER2 発現との相関は見られなかったことなどが報告されています(文献 2)。さらに、近年、YB-1 の発現が肝がんの予後マーカーになり得ることも報告されています(文献 3)。

免疫抗原 ： Human YB-1 のリコンビナントタンパク質

起源 ： マウス×マウス ハイブリドーマ（培養上清)
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 ： 21A3 サブクラス ： IgG_1

精製方法 ： プロテイン A 精製

包装形態 ： 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 ： 精製水 1.0 mL 添加（この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 ： 2～8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 ： 免疫組織染色 1～5 µg/mL にて使用可能
ホルマリン固定、パラフィン包埋切片の場合ギマイクロウェーブ処理が必要
： ウエスタン･ブロッティング 1 µg/mL にて使用可能

文献 ：
1. Shibahara K, Sugio K, Osaki T, Uchiumi T, Maehara Y, Kohno K, Yasumoto K, Sugimachi K, Kuwano M. Nuclear expression of the Y-box binding protein, YB-1, as a novel marker of disease progression in non-small cell lung cancer. Clin Cancer Res. 2001 Oct;7(10):3151-5.
2. Janz M, Harbeck N, Dettmar P, Berger U, Schmidt A, Jurchott K, Schmitt M, Royer HD. Y-box factor YB-1 predicts drug resistance and patient outcome in breast cancer independent of clinically relevant tumor biologic factors HER2, uPA and PAI-1. Int J Cancer. 2002 Jan 20;97(3):278-82.
3. Yasen M, Kajino K, Kano S, Tobita H, Yamamoto J, Uchiumi T, Kon S, Maeda M, Obulhasim G, Arii S, Hino O. The up-regulation of Y-box binding proteins (DNA binding protein A and Y-box binding protein-1) as prognostic markers of hepatocellular carcinoma. Clin Cancer Res. 2005 Oct 15;11(20):7354-61.

株式会社 免疫生物研究所
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp